

「この人 68」

小泉花子 76歳 兵庫県

編集部 滑稽俳句を始められたのは？

小 泉 俳句は、五、六年前に面白半分で俳句の会を見学して、それ以来なんとなく続いていました。滑稽俳句は、すでに会員だった友人に背中を押していただいて始めました。

編集部 滑稽俳句の魅力は？

小 泉 「うーん、そうなのか！」といった意外性を発見出来る事と、「フ、フ、フ」と笑えるところでしょうか。

編集部 俳句における「滑稽」とは？

小 泉 肩の力を抜いてホッとできる、人生の潤滑油の役目を果してくれるものじゃないかなと思います。

編集部 滑稽俳句を続けて良かったことは？

小 泉 読み返してみて、じわじわとほのぼの感が湧き出してきて、とっても楽しくなれることです。

編集部 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

小 泉 私の場合考え込んだらダメなのです。
自分が思った事、感じた事をそのまま十七音に収めようと心がけています。

【代表句】

白梅の紅さす事を忘れしや
髪型のどうにも気になる春うらら
饒舌を許せとばかり蟬しぐれ
転ぶかと思いつ転ぶ雪の朝
平成の犬はこたつで丸くなる